

天然藍濃縮液

天然インド藍を還元溶解した高濃度の藍液です。添付のハイドロを溶かした水で薄めるだけで好みの濃度の藍染め液が作れます。

- ◎ 簡単藍染め法であれば、天然藍濃縮液だけで染められます。
- ◎ 堅ろう藍染め法の場合は、別売の「堅ろう藍染め助剤セット2(小)又は(大)」をお求め下さい。
- ◎ 必要に応じて、タナウェットAL、ユニソフナーSS、酸化防止袋(大)も準備します。

天然藍濃縮液	100 g	ハイドロ (5 g × 2) 付	253-211-00
	500 g	ハイドロ (20 g × 2) 付	253-212-00
	1 kg	ハイドロ (40 g × 2) 付	253-213-00

株式会社 田中直染料店

TEL 075-351-0667

URL <http://www.tanaka-nao.co.jp>

天然藍濃縮液 簡単藍染めの染め方

少々のムラや色落ちはかまわないが
簡単に染めたい場合におすすめ!

昔からの染め方ですがこの
ような欠点があります

- ・ 染めムラがしやすい。
- ・ 縫い目の中が染まりにくい。
- ・ 濃い藍染め液では、染めムラ・色落ちしやすい。
- ・ 濃色に染めるのに、非常に時間がかかる。
- ・ 摩擦で色落ちしやすい。
- ・ 目的の濃度や同じ濃度に染めるのは困難。

■用意するもの

- ・ ポリバケツ
- ・ ボール
- ・ ハサミ
- ・ 攪拌棒(菜箸等)
- (・酸化防止袋(大))
(藍染め液が10L前後で1ヶ月以上保存したい場合に使用します。)
- ・ ラップ(サランラップ、クレラップ等の
ポリ塩化ビニリデン製のもの)
- ・ ゴム手袋
- ・ 保護メガネ

■藍染め液に必要な水とハイドロの量

天然藍濃縮液	水+ハイドロ
100 g	4L+ハイドロ1袋(5g)
500 g	20L+ハイドロ1袋(20g)
1kg	40L+ハイドロ1袋(40g)

藍染め液の作り方

①

上記の表より必要量の水と付属のハイドロ1袋を入れ、静かに混ぜて溶かします。藍染め液の温度は15~25℃位が適します。

②

天然藍濃縮液を上下に軽く振り混ぜてから、水中で袋を切り、中の液をしごき出します。

③

棒で軽く混ぜれば藍染め液の完成です。空気酸化しないようにすぐに液面に接してラップします。液の表面は青くなりますが、液の色は茶味の黄色です。

【保存したい場合】

ポリバケツに酸化防止袋を入れ、藍染め液を作ります。空気を追い出し、固くねじった袋の先を二つ折にし、輪ゴムでしっかり止めます。このまま空気が入らなければ1ヶ月以上保存できます。

藍染め方法

④

藍染めする布を水で濡らしておきます。均一に濡れないまま染めるとムラになります。

⑤

水を軽くしぼり、布を広げ、端から手速く藍染め液に浸け込みます。あまり固く水をしぼらず、空気の泡をできるだけ入れないように棒などで引き込むように浸けることがコツです。

⑥

藍染め液を棒で静かに攪拌し、常に布を動かすようにして3~5分染めます。かき混ぜる方向を変えながら、布がダンゴ状に固まらないようにして下さい。

⑦

ハンカチやスカーフの場合
Tシャツや絞り布の場合

引き上げてからは布を絞らない!

ハンカチ等は、藍染め液中で布の端を探してつまんで引き上げます。2~5秒ほど静止し、余分の藍染め液を落としたら、端をつまんだままで手速く水洗に移ります。Tシャツ等藍染め液を多く含む布の場合は、藍染め液中で布をダンゴ状にまとめて軽く絞ってから引き上げ、手速く水洗に移ります。

⑧

1回目の水洗液
2回目の水洗水

水に浸ける→引き上げるを繰り返しながら洗います。5回ほど布を上下させたら新しい水に替えます。シャツなど衣類は、襟首の部分をつまんで上下させて洗います。

⑨

水を流しながらすすぎ洗います。布は黄→緑→紺に発色します。

⑩ 日陰で空気酸化→乾燥

10~20分空気酸化し、更に濃く染めたい場合は、⑤~⑩の工程を数回繰り返します。好みの色になれば、乾燥します。絞り布の場合は、糸を取ってから、乾燥します。乾燥後、アイロンをかけ仕上げます。

藍染め液の色

【黄~黄緑】
そのまま染められます。

【緑~青緑】
1回位は染まりますが、すぐ染まらなくなるのでハイドロ1袋を加え、ラップしてしばらく放置し、黄~黄緑色に戻してから染めます。

【青】
殆ど染まりません。ハイドロ1袋を加え、ラップして数時間~1夜間放置し、黄~黄緑色に戻してから染めます。

天然藍濃縮液

堅ろう藍染めの染め方

思い通りの色を、色ムラ・色落ちしない
藍染めがしたい場合におすすめ！

別売の堅ろう藍染め助剤セットが必要ですが、簡単藍染めの欠点を全て解消し、極濃色も一度の染色で染めることができます。

用意するもの

- ・堅ろう藍染め助剤セット2(小)又は(大)
- ・セット内容 (発色剤EC・酢酸80%・藍ソープS)
 - ・EC中和剤・10ml計量カップ
- ・ボール　・保護メガネ　・ハサミ　・ラップ
- ・ポリバケツ・攪拌棒　・ゴム手袋(ユニソフナーSS)
- ・アイロン、アイロン台
- ・酸化防止袋(大)
 - (藍染め液が10L前後で1ヶ月以上保存したい場合に使用します。)
- ・タナウェットAL
 - (染める布に水が浸透しにくい場合に使用します。)

染めたい濃度に必要な水とハイドロ量

天然藍濃縮液	標準濃度	極濃紺	少し薄め青
100gの場合	水の量 2L + ハイドロの量 1袋(5g)	1~1.5L + 1袋(5g)	3~4L + 1袋(5g)
500gの場合	水の量 10L + ハイドロの量 1袋(20g)	5~7L + 1袋(20g)	15~20L + 1袋(20g)
1kgの場合	水の量 20L + ハイドロの量 1袋(40g)	10~15L + 1袋(40g)	30~40L + 1袋(40g)

藍染め液の作り方

①

ハイドロ1袋

染めたい濃度に応じた水の量

上記の表より必要量の水と付属のハイドロ1袋を入れ、静かに混ぜて溶かします。藍染め液の温度は15~25℃位が適します。

②

天然藍濃縮液 1袋

水中で切る

天然藍濃縮液を上下に軽く振り混ぜてから、水中で袋を切り、中の液をしごき出します。

③

ラップは液面に密着させる

軽く攪拌

棒で軽く混ぜれば藍染め液の完成です。空気酸化しないようにすぐに液面に接してラップします。液の表面は青くなりますが、液の色は茶味の黄色です。

【保存したい場合】

ポリバケツに酸化防止袋を入れ、藍染め液を作ります。空気を追い出し、固くねじった袋の先を二つ折にし、輪ゴムでしっかり止めます。このまま空気が入らなければ1ヶ月以上保存できます。

藍染め

④

水

藍染めする布を水で濡らしておく。水が浸透しにくいときは、タナウェットALを加えた水に浸けて、しっかり布の内部まで水を浸透させる。均一に濡れないまま染めるとムラになる。

⑤

水

藍染め液

水から引き上げ、絞らず軽く水を切ったら空気の泡が入らないよう、棒で引き込むように浸ける。

⑥

20~30分

布が浮き上がらないよう静かに攪拌し、布を動かしながら20~30分染める。布がダンゴ状に固まらないよう注意。

染色時の注意

- ・布は液中に沈める。浮き上がり空気に触れるとムラになる。
- ・藍染め液はできるだけ空気に触れないようにする。「酸化防止袋の口を半分閉じる」「液面をラップで覆う」「液面の2/3~3/4程を発泡スチロールの浮きフタで覆う」等。
- ・常に液を攪拌しながら染める。布を静置したままではムラになるだけでなく濃く染まらない。

発色の準備

⑦

酢酸80% 水1L当り5ml

発色剤EC 水1L当り10ml

水

布の重さの20~50倍量

染色の途中で発色液を作っておく。何枚もまとめて染める場合、発色液をまとめて作っても良いが、発色時は1枚毎に分けて使用する。

⑧

水洗用の水2~3個

水

布の重さの100~200倍

水洗用の水を準備する。厚手の布やTシャツ等は、水の量を多くし、3個準備した方がしっかり洗える。

⑨

藍染め液

水

水

発色液

藍染め液から布を引き上げたら順に掛けられるよう並べて置く。

水洗・発色

10-A



ハンカチやスカーフの場合

ハンカチやスカーフなどは、藍染め液中で布の端を探してつまんで引き上げる。2~5秒ほど静止し、余分の藍染め液を落としたら、端をつまんだまま手速く水洗に移る。

10-B



Tシャツや絞り布の場合

Tシャツや絞り布など藍染め液を多く含む布の場合は、藍染め液中で布をダンゴ状にまとめて軽く絞ってから引き上げ、手速く水洗に移る。

11



1回目の水洗水

2回目の水洗水

藍染め液から引き上げたらすぐ水に浸け、手速く3~4回浸ける→引き上げるを繰り返す。2回目の水洗水と同様に洗い、引き上げ、2~3秒水を切ってから発色液に入れる。

12

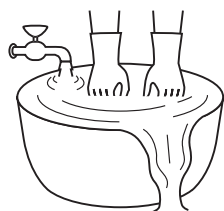


発色液

発色液で手速く3~4回浸ける→引き上げるを繰り返した後、時々布を動かしながら発色させる。絞り布で更に染め重ねない場合は、絞りを取り、布を拡げて発色させる。

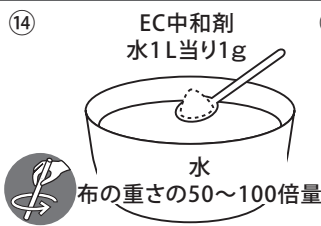
中和洗浄

13



水を換えながらしっかりすすぎ洗います。

14



布の重さの50~100倍量

EC中和剤を溶かして発色剤中和液を作る。

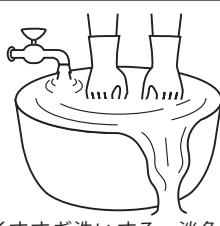
15



発色剤中和液

発色剤中和液で布をよく動かしながら洗い、布に残っている発色剤を中和する。

16



軽くすすぎ洗います。淡色~中色であれば、染め重ねたい場合は、⑤~⑯の工程を繰り返す。⑰、⑳、㉒のいずれかへ進む。

ソーピング(中々濃色染めの場合)

17

藍ソープS 水1L当たり5ml



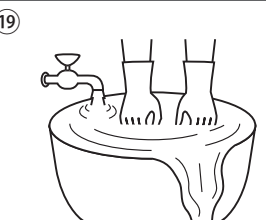
布の表面に付着した色素を洗い落とし摩擦による色落ちを防ぐため、ソーピングする。淡色~中色染めでは、⑰~⑲を省いても良い。

18



布を入れ、強く押し洗います。布を拡げシワの形を変え、均一に揉むようにする。布が多い場合は、洗濯機で洗うと良い。絹は優しく洗う。

19



水を換えながら色が出なくなるまで洗う。⑳又は㉒へ進む

- ソーピング液に浸けるだけでは洗えない。
- 強く押し洗い、揉み洗いすると布の表面に付着した色素だけ落ちる。
- 堅ろう藍染め法では、色流れしても染めた布は薄くならないが、従来法「簡単藍染め」の布は布表面に染まった色素が多いため布の色が半分くらいに淡くなる。
- 絹は強く洗うと傷んでしまう。(スレを生じる)

柔軟仕上げ(必要に応じて)

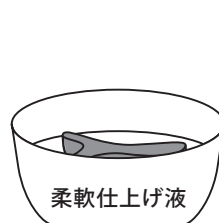
20

ユニソフナーSS 水100ml当り4~6ml



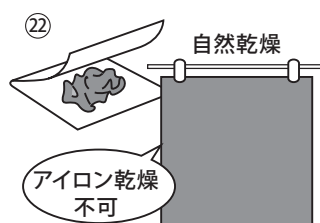
柔軟仕上げ液を作る。1度処理すると、柔軟効果はいつまでも続く。

21



固く脱水した布を入れ、浸ける→絞るを2~3回繰り返した後、軽く絞る。

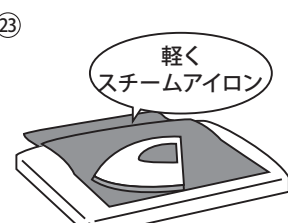
22



アイロン乾燥不可

乾いたタオルで、余分の液を吸い取り、自然乾燥する。洗濯機で脱水しても良い。絹の淡色染めは固く脱水し、早く乾かした方が鮮やかな青になる。

23



乾燥後、スチームアイロンをかけて仕上げる。

備考

- 色が淡くなくても良いが、できるだけ多く染めたい場合は、ハイドロと藍染め液安定剤を追加すれば、極淡色になるまで染めることができます。
- 1~2週間後にまた染めたい場合は、液の表面をラップ等で密着させ保存します。もし液が緑~青緑色の場合は、ハイドロを1袋追加します。付属のハイドロを使い切った場合は、別売のハイドロとハイドロの3倍量の藍染め液安定剤を加え保存します。
- ラップはサランラップ、クレラップ等のポリ塩化ビニリデン製のものを使用します。
- 藍染め液を継続していつまでも使いたい場合は、インド藍液を使った藍染めをお勧めします。

酸化防止袋で染める

- 絞り染布のように小さくまとめた布の藍染めに適した方法です。とくに揉み込みが必要な、おりがみ絞りや板締め絞りの場合は、染色中に藍染め液が酸化する心配がなくおすすめです。また、少量の藍染め液で染色でき、手や周りを汚さず染色できます。

ハンカチ・ストール等の場合

- 酸化防止袋 (小) + エニーロック 15 cm巾
- 酸化防止袋 (厚手・中) + エニーロック 32 cm巾

Tシャツ・エプロン・のれん等の場合

- 酸化防止袋 (厚手・大) + エニーロック 32 cm巾